

令和 6 年 5 月 21 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01282

研究課題名（和文）異文化理解における外国語教科書の役割—中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として—

研究課題名（英文）The Role of Foreign Language Textbooks in Intercultural Understanding - Focusing on Chinese, Russian, and Korean Languages

研究代表者

王 周明 (WANG, ZHOUMING)

大阪大学・大学院人文学研究科（言語文化学専攻）・准教授

研究者番号：30512743

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 9,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は過去百年以上にわたって日本で出たロシア語・中国語・朝鮮語の教科書を、顕在的及び潜在的イデオロギーという視角から分析し、そこに現れる日本・日本人のイメージ・表象の変容をも視野に入れつつ、日本人が隣国に抱いていたイメージを探った。さらに外国語教科書が日本人の異文化理解において果たしてきたイデオロギー的役割・政治的意味、そしてそれが生み出す文化的想像力を分析し、当該教科書の出版年代における日本国内の政治・経済・文化的状況、また日本と対象諸国間の外交・社会的関係とどのように連動しているかを考察した。そのほか、近現代日本で出た露中朝教科書類目録(2022年迄)のデータベースを完成して公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、第一に、日本における外国語教科書の政治性・イデオロギー的役割に顕在的及び潜在的の両面から想到したことである。このような研究はかつてなかったものである。そしてそれを第二言語習得理論・言語文化学・社会言語学・歴史学・フェミニスト理論などの理論を応用しつつ、複数言語にわたり、学際的に、総合的に外国語教科書の持つ隠されたイデオロギー的効果を究明し、外国語学習を通じた異文化理解のメカニズムを明らかにしようとするところに独創性があった。本研究の研究成果は日本と国際社会全般の間の相互理解のための、よりよい外国語教育、そしてそれがもたらす適切な異文化理解に関する総合的研究の展開に資する。

研究成果の概要（英文）：This study analyzed Russian, Chinese, and Korean language textbooks published in Japan over the past century, examining them from the perspective of explicit and implicit ideologies. It explored the images and representations of Japan and the Japanese people depicted in these textbooks, investigating how the Japanese perceived their neighboring countries. Additionally, the study analyzed the ideological roles and political meanings that these foreign language textbooks played in shaping Japanese cross-cultural understanding, and the cultural imagination they generated. It examined how these textbooks were linked to Japan's political, economic, and cultural conditions at the time of their publication, as well as the diplomatic and social relationships between Japan and the respective countries. Furthermore, the study completed a database cataloging Russian, Chinese, and Korean language textbooks in modern and contemporary Japan (up to 2022) and the database is available online.

研究分野：中国語学

キーワード：異文化理解 外国語教科書 中国語 ロシア語 朝鮮語 イデオロギー

### 1. 研究開始当初の背景

言語は一つの国の政治・経済・文化を支える重要な要素のひとつである。学習者は外国語を学習する際、当然ながら当該国の国家・社会の地理的・経済的・社会的状況、風俗、文化をともに学ぶことになる。その際に問題となるのは学習者が「学び」の過程において常に無批判・無防備な状況に置かれることである。外国語教科書は単に言語学的知識の伝達やコミュニケーションツールとしての言語の伝授を内容としていると見なされがちだが、実は、様々な内容を伝える情報メディアの機能、また場合によって学習者に新たな価値観や感性を与える思想的装置の役割も果たしている。文化背景や社会システムが異なれば異なるほど、この役割は一層顕著になる。つまり、外国語教科書の執筆者が意識的または無意識的に示したある価値観や思想をも学習者は同様に習得することになり、文化的・政治的ステレオタイプへと導かれる可能性が否めない。このように、外国語教科書のイデオロギー性の研究が異文化理解にとって重要な学術的課題であるにもかかわらず、英語については中村敬『私設英語教育論』等に代表されるように1980年代から一定の研究がなされてきたものの、その他の外国語についてはほとんど研究されてきていないのが現状である。そのような状況で、多くの教科書編集者は、無意識のうちに特定のイデオロギーに立脚して教科書を編纂していながら、そのことに無自覚だということが起こっている。

### 2. 研究の目的

あらゆる語学教材がイデオロギー的效果を有しているのだという認識が本研究課題の独創的な視座である。本研究は、日本で出されたロシア語・中国語・朝鮮語教科書を研究対象とし、そのようなプリズムを例文の内容だけではなく、学習すべき語彙や文法項目の選択、口語的な表現か文語的な表現かどちらが重要視されているか、標準語が基調か俗語・新語なども柔軟に取り入れられているのかなど、教科書のさまざまな属性を通じて、外国語教科書の政治・社会・歴史・文化的情報内容を解明し、相手国のイメージ形成の有り様、隠されたイデオロギー的效果、提供される史的情報の傾向、それと日本社会の価値観との関連などの究明を目指した。

### 3. 研究の方法

具体的な方法として、まず国内外のロシア語・中国語・朝鮮語教科書類を網羅的に収集した。購入可能なものは古書店を通じて購入し、そのほかのものは図書館・資料館にて複写したり、(新型コロナ期間中)ネット調査や電子資料活用を積極的に行ったりした。収集した外国語教科書類の書誌のデータベース化を構築・改良しながら、データベース化した教科書類の情報・テキストを、メディア学・言説分析・比較言語文化学・批判的社会言語学などの方法を用いて詳細に分析し、異文化理解の構造を外国語教育との関連で明らかにしようとした。

### 4. 研究成果

ロシア語班は、それぞれの専門に応じて、日本におけるロシア語教科書における異文化理解の問題を調査・研究した。ロシア文学研究及び比較文学・比較文化的方法を用いて、日本の外国語教科書における文学的バイアスのありようや、オリエンタリスティックな視座を検証した。ロシア語教科書には執筆者の文学志向が必要以上に反映され、生きたロシア語からは離れていると同時に、そこにはロシア文化における文学的言語の権威意識が反映されていることが明らかにされた。女性史の観点から外国語教科書を分析し、シベリアに抑留された日本女性は、当時の日本の支配地満洲の看護婦や見習い、女子挺身隊に集中している。多くの満洲の女性たちがいかにして抑留を生き抜き、帰還をはたしたのかを考え、その秘訣がコミュニケーション力にあり、それを保証した日露教材にあることが判明した。ロシア政治史の知見を用いて、近現代のロシアにおける重要な歴史的事件がどのように日本のロシア語教科書の内容に影響を与えたかを明らかにした。ロシア革命、スターリン批判、冷戦、ペレストロイカ、ソ連崩壊などが速やかに、そして深刻にロシア語教科書の内容に変化をもたらしていることが明らかにされた。1800～2022年刊行のロシア語教科書類958件のリストを完成した。

中国語班は、対照言語学および言語文化学の方法を用いて、中国語教科書とその言語本体をそれぞれ当時の社会情勢や文化的要素と結びつけ、(1)漢学が再興された江戸時代に発足した中国語教育の教科書の形式・内容の変遷と江戸明治時代の漢文背景、(2)最初に北京官話を書名にした明治期の漢訳中国語教科書『北京官話伊蘇普諭言』の書籍完成と和洋中という多文化的要素、(3)『北京官話伊蘇普諭言』の口語性の関連問題と北京官話という名称への固持理由、(4)拼音採用以前の中国語教科書と中国語音声表記法の実態概観、(5)1950年代後半～80年代前半日本に伝わってきた中国語教科書に見られる「中国語」と「中国」など、幾つかのテーマに分けて異文化理解の視点から、その言語学的な変遷を明らかにした。学習者と創作者双方の視点を用いて、演劇的表現法の活用・応用の観点から、外国語と中国語の相互関係を見るのが大変有意義なことだという問題意識を持ちながら、これまでの演出・教育経験をもとに、多くの劇作品を精読してきた。結果、学習者にとって理解しやすいような読みものを突き止め、中国語テキストに適した

ものの主な特徴を掴む事ができた。1700～2022年刊行の中国語教科書2142件のリストを完成した。

朝鮮語班は、社会言語学・朝鮮語教育史の観点から、近年刊行の朝鮮語教科書に見られる(1)日本語表記法の記述、(2)地図、(3)言語呼称に着目し、それぞれが(1)規範と言語事実、(2)理念と現実、(3)歴史と変化という要素の狭間で学習者に提示している事柄について考察した。さらに、3人の学習書を取り上げ、旧朝鮮語学の学習書が戦後の学習書に流用される様相から旧朝鮮語学と戦後の朝鮮語教育の断絶と連続性を検討した。これらから、毎年あまたの朝鮮語教科書が刊行される現代において、それらが意識的・無意識的に学習者に与える影響の一端を明らかにすることによって、何のために外国語を学ぶのかという問いに対するひとつの答えを示した。

1880～2022年刊行の朝鮮語教科書類2131件のリストを完成した。

上記の研究成果は研究論文、国内外での口頭発表および図書出版のほか、ワークショップ3回・公開セミナー1回・講演会1回を開催したことおよび近現代日本で出たロシア語・中国語・朝鮮語教科書類目録のデータベースをインターネット上公開していること(<http://takman.my.coocan.jp/misc-J.htm>)にも反映されている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計18件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 植田 晃次	4. 巻 2022
2. 論文標題 「旧朝鮮語学」と「戦後」の朝鮮語教育の断絶と連続性小攷 - 残された学習書を手掛かりとして (1945-1965) -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 批判的社會言語学の現在 (言語文化共同研究プロジェクト2022)	6. 最初と最後の頁 47 ~ 58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/91568	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 王 周明	4. 巻 2022
2. 論文標題 日本中国語教科書の形式および内容変遷による啓示 (二) : ピン音採用以前の中国語音声表記法ほかの実態概観	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 時空と認知の言語学12 (言語文化共同研究プロジェクト2022)	6. 最初と最後の頁 10 ~ 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/91545	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 生田 美智子	4. 巻 37
2. 論文標題 女たちの戦後	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 54 ~ 71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田 美智子	4. 巻 38
2. 論文標題 自著を語る『満洲からシベリア抑留へ - 女性たちの日ソ戦争』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 197 ~ 205
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田 美智子	4. 巻 39
2. 論文標題 女たちの戦後 満洲で生活して	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 104 ~ 110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本 和貴夫	4. 巻 39
2. 論文標題 ウラジオストクにおける東洋学院の創設 (1899 年) 東京外国語学校と比較の試み	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 11 ~ 30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takayuki Yokota-Murakami	4. 巻 -
2. 論文標題 Cultural Interactions between Japan and Russia: The Japanese Perspective	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Handbook of Japan-Russia Relations	6. 最初と最後の頁 255 ~ 270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 王 周明	4. 巻 2021
2. 論文標題 中国語教科書に見る「中国語」および「中国」 1950 年代後半 ~ 80 年代前半中国原編日本改編のものを 中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 時空と認知の言語学XI (大阪大学大学院言語文化研究科・言語文化共同研究プロジェクト2021)	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/88369	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 植田 晃次	4. 巻 2021
2. 論文標題 朝鮮語テキストの言語呼称小致 - 歴史と変化のはざまの風景 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 批判的社会言語学の深化 (大阪大学大学院言語文化研究科・言語文化共同研究プロジェクト2021)	6. 最初と最後の頁 44-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/88401	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 王 周明	4. 巻 48
2. 論文標題 日本漢語教科書形式與内容變遷的啓示 (一) : 以其江戸明治時期漢文背景の變化為中心	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 21-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/87084	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 夏 嵐	4. 巻 48
2. 論文標題 試析話劇史上改譯劇長期存在的原因	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 113-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/87089	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本 和貴夫	4. 巻 38
2. 論文標題 ロシアによるウクライナ軍事侵攻	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 5-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生田 美智子	4. 巻
2. 論文標題 沖縄島諸島琉球と宮古島への旅行日記	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ニコライ・A・ネフスキー生誕 130年・来島100年記念文集 ニヌパブス(子ぬ方星)	6. 最初と最後の頁 27-33
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王 周明	4. 巻 2018
2. 論文標題 《北京官話伊蘇普喻言》成書の多文化因素	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 時空と認知の言語学 (大阪大学大学院言語文化研究科・言語文化共同研究プロジェクト2018)	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/72752	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田 晃次	4. 巻 2019
2. 論文標題 朝鮮語テキストの日本語表記法の記述小攷 - 規範と言語事実のはざまの風景 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 批判的社會言語学の探訪(大阪大学大学院言語文化研究科・言語文化共同研究プロジェクト2019)	6. 最初と最後の頁 43-54
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植田 晃次	4. 巻 2020
2. 論文標題 朝鮮語テキストの地図小考 - 理念と現実のはざまの風景 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 批判的社會言語学の対話(大阪大学大学院言語文化研究科・言語文化共同研究プロジェクト2020)	6. 最初と最後の頁 63-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王 周明	4. 巻 47
2. 論文標題 《北京官話伊蘇普喻言》的口語性相關問題試探	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 言語文化研究	6. 最初と最後の頁 25-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/79323	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藤本 和貴夫	4. 巻 37
2. 論文標題 対日開戦時のウラジオストク (1945年夏)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 セーヴェル	6. 最初と最後の頁 36-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 4件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 リュドミーラ・エルマコーワ
2. 発表標題 ロシア語教育 - 歴史と現代のある問題をめぐって
3. 学会等名 科研講演会 (座談会形式) 基盤研究B: 異文化理解における外国語教科書の役割――中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 木村 英樹
2. 発表標題 「時間」という名の「空間」 - - 中国語における時間領域の空間的把握について
3. 学会等名 科研講演会 (座談会形式) 基盤研究B: 異文化理解における外国語教科書の役割――中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として (招待講演)
4. 発表年 2023年



1. 発表者名 内山 政春
2. 発表標題 朝鮮語教科書の新出単語について
3. 学会等名 科研講演会（座談会形式） 基盤研究B：異文化理解における外国語教科書の役割ー中国語・ロシア語・朝鮮語を対象として（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 王 周明
2. 発表標題 日本漢語教科書中の母語文化負転移現象
3. 学会等名 中央民族大学民族博物館例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 王 周明
2. 発表標題 中国語教科書の内容構成に見る変化について 2000年以降日本刊行の中国語教科書を中心にー
3. 学会等名 ワークショップ：異文化理解における外国語教科書の役割（三）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 ヨコタ村上 孝之
2. 発表標題 Music as a Supra-primary Language: L. Tolstoy and His Cultural Universalism
3. 学会等名 国際比較文学会（トビリシ国立大学）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本 和貴夫
2. 発表標題 明治・大正期知識人たちのトルストイ
3. 学会等名 日本トルストイ協会・シンポジウム「トルストイ、ロシア、世界」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤本 和貴夫
2. 発表標題 ロシアと日本の高等教育にける最初の外国語教育 ウラジオストク東洋学院と東京外国語学校ー
3. 学会等名 公開セミナー：異文化理解における外国語教科書の役割 中国語・ロシア語・朝鮮語を対象としてー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ヨコタ村上 孝之
2. 発表標題 東京外国語学校のロシア語教科書について
3. 学会等名 公開セミナー：異文化理解における外国語教科書の役割 中国語・ロシア語・朝鮮語を対象としてー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 夏 嵐
2. 発表標題 脚本を語学教科書として
3. 学会等名 公開セミナー：異文化理解における外国語教科書の役割 中国語・ロシア語・朝鮮語を対象としてー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 王 周明
2. 発表標題 中国語音声表記法と日本の中国語教科書
3. 学会等名 公開セミナー：異文化理解における外国語教科書の役割 中国語・ロシア語・朝鮮語を対象としてー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 植田 晃次
2. 発表標題 「旧朝鮮語学」と現代の朝鮮語教育の断絶と連続性
3. 学会等名 公開セミナー：異文化理解における外国語教科書の役割 中国語・ロシア語・朝鮮語を対象としてー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 藤本和貴夫
2. 発表標題 ウラジオストク東洋学院における日本語・中国語・朝鮮語教育
3. 学会等名 ワークショップ：異文化理解における外国語教科書の役割（一）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ヨコタ村上、王周明、植田晃次
2. 発表標題 日本で出されたロシア語・中国語・朝鮮語教科書データベースの構築
3. 学会等名 ワークショップ：異文化理解における外国語教科書の役割（二）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 Kazuhiko Togo, Dmitry Streltsov	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Tokyo: Japan Documents	5. 総ページ数 413
3. 書名 Handbook of Japan-Russia Relations	

1. 著者名 夏嵐	4. 発行年 2024年
2. 出版社 (北京)三聯書店	5. 総ページ数 -
3. 書名 中国現代話劇史上の外国劇	

1. 著者名 2022ネフスキー記念文集編纂委員会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 花View出版	5. 総ページ数 286
3. 書名 ニコライ・A・ネフスキー生誕 130年・来島100年記念文集 ニヌパブス(子ぬ方星)	

1. 著者名 長塚 英雄	4. 発行年 2019年
2. 出版社 生活ジャーナル	5. 総ページ数 487
3. 書名 続々・日露異色の群像30 文化・相互理解に尽くした人々 (ドラマチック・ロシアin Japan V)	

1. 著者名 生田 美智子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 408
3. 書名 満洲からシベリア抑留へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	ヨコタ村上 孝之 (YOKOTAMURAKAMI Takayuki) (00200270)	大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・准教授  (14401)	
研究分担者	夏 嵐 (XIA Lan) (10467095)	大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・特任准教授 (常勤)  (14401)	
研究分担者	生田 美智子 (IKUTA Michiko) (40304068)	大阪大学・言語文化研究科(言語社会専攻、日本語・日本文化専攻)・名誉教授  (14401)	
研究分担者	藤本 和貴夫 (FUJIMOTO Wakio) (70029734)	大阪経済法科大学・公私立大学の部局等・教授  (34427)	
研究分担者	植田 晃次 (UEDA Kozi) (90291450)	大阪大学・言語文化研究科(言語文化専攻)・教授  (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------